2023年　JCCI 海外視察報告

テーマ：　持続可能なビジネスの最先端
期　間：　2023年11月25日（土）－11月29日（水）
訪問地：　オーストラリア連邦・ビクトリア州・メルボルン市

主な視察先・活動内容

1．日豪パイロット実証プロジェクト：褐炭水素サプライチェンの構築

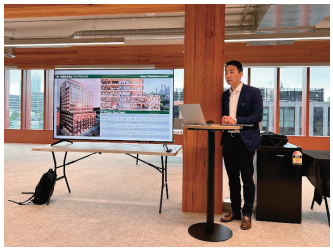
日豪両政府が合同で実施する世界初の褐炭水素サプライチェンプロジェクト。日本側主な参画企業である川崎重工業豪州子会社担当者の案内で、水素の原料となる広大な褐炭鉱から、隣接する水素製造施設、そして水素を液化し日本（神戸港）へ輸出する港の荷役施設まで、１日かけて、水素の採掘、製造、運搬の全工程を視察した。同プロジェクトは約３年間の実証期間を無事終了し、今年から2030年まで、商業的実証段階へ進捗、取り込み始めたところ。設備の仕組みや規模を実感できたほか、新しいステージにおいて、グリーン水素を目指すため、二酸化炭素の回収・貯留（CCS）の検討のほか、豪連邦政府の政権交代によるエネルギー政策への影響や地域住民への説明活動など、現場ではならの課題と苦労話を伺うことができた。

2．ジェトロ・シドニーによるブリーフィング：オーストラリアの概況と日系企業の進出動向

現地から参加したジェトロ・シドニーの渡邊所長より、視察団に対し、オーストラリアの概要や、2019年までの28年間の経済成長の現状、産業構造、市場の魅力、日本企業の進出動向を説明した上、特にエネルギー産業に焦点を当て、注目すべきポイントや課題を分析して頂いた。視察国への理解に大変役に立つ充実した情報と知見が勉強になった。

3．ネットゼロカーボン大規模木造オフィスビル：36 Wellington Project

メルボルン市内にある15階建ての最大級木造建築（デベロッパー：住友林業、NTT都市開発、米国不動産大手ハインズ；建設：鹿島建設の100%子会社であるICON社）。　脱炭素社会への貢献をめざすプロジェクトとして、建築時に排出されるCO_2を抑制し、木の特徴を活かすために、あらゆる工夫をしながら、地元の管轄部門と積極的な交渉を進め、建築基準法と消防法を無事クリア、10月に予定通りに竣工した。地上から6階までが鉄筋コンクリート造りで、7階から15階までが木造建築となっており、異なる材質のフロアに入り、違いを体感できた。環境価値の高いオフィスビルとして、入居企業も徐々に決まってきたと紹介された。偶然にも視察日が竣工祝賀パーティに重なり、多くの関係者がこの先進的な取り組みの更なる展開を楽しみにしている模様。



4．ビクトリア州政府及との懇談会とネットワーキングランチ

州政府の投資誘致機関であるInvest VictoriaのExecutive Director Mr Craig Harrisonをはじめ、アジア・APAC市場、エネルギー政策、デジタル分野やスタートアップエコシステムなど各分野の担当者から、投資環境の魅力、最新の動向と取り組み、および未来に向けたビジョンを詳しく紹介された。

懇談会後のネットワーキングランチでは、更に、7社のオーストラリア企業（日系企業を含む）が参加し、視察団メンバーと名刺交換、意見交流を行った。

「VIC州は人口約660万人、州内総生産（GSP）5,354億オーストラリア・ドル（約51兆3.984億円、豪ドル、1豪ドル＝約96円）で、人口や経済規模がともにニューサウスウェールズ州に次いで同国で2番目に大きい。資源大手のBHPやリオティント、金融大手のナショナルオーストラリア銀行、オーストラリア・ニュージーランド銀行、百貨店のマイヤーなど多くの国内企業が拠点を置いている。近年では国内外のテクノロジー企業も集積、特にデジタルやヘルステック分野に強みを持ち、大学も多く、高度な人材が集まっている。」(From Jetro Sydney)

5．スタートアップ企業のビジネス発表と意見交換会

ビクトリア州政府のアレンジで、①Octopus Australia（再生可能エネルギー投資会社）；②ST Solutions AUSTRALIA（SoftBank Corp、AI, IoT, and Robotics分野での展開）；③ Sungreen H2（水素スタートアップ企業）の3社がそれぞれの事業内容を紹介。また、シンガポールからメルボルンへ移転した②と③社から、オーストラリアへ投資の理由やシンガポールとのビジネス環境の違いなどの説明し、JCCI視察団参加者との質疑応答も行った。それぞれの企業に、Invest Victoriaの担当者がつき、同席の上、補足説明を行うなど、スタートアップに州政府の手厚い支援が印象的だった。

6．　インキュベーター ”Cremorne Digital Hub” の見学と意見交換会

ビクトリア州政府が主導し、世界的に有名な大学とベンチャーキャピタル、50以上の企業で構成されたコンソーシアムによって運営されたデジタル分野に特化したインキュベーター。豪州に3拠点のほか、ロンドン、ニューヨーク、上海、シンガポールとジャカルタにもオフィスを持ち、特にシンガポールオフィスはこれからJCCI会員企業とのコラボに高い関心が示された。

参加者名簿：

	JCCI役職	名前	社名
1	会頭	馬場 孝一郎	Toray International Singapore Pte Ltd
2	副会頭	江口 大二郎	Mitsui Fudosan (Asia) Pte.Ltd.
3	副会頭	河野 篤哉	Mizuho Bank, Ltd.
4	副会頭	山﨑 淳	Sumitomo Mitsui Banking Corporation
5	運営担当理事	杉島 淳	Panasonic Asia Pacific
6	運営担当理事	澤田 克洋	Tokio Marine Insurance Singapore Ltd.
7	運営担当理事	富井 淳司	Fujitsu ASIA
8	運営担当理事	神田 真也	ALL NIPPON AIRWAYS CO., LTD
9	運営担当理事	西村 雅人	Sumitomo corporation Asia & Oceania
10	理事	疋田 智一	MUFG Bank, Ltd
11	参与	木村 洋一	JETRO SINGAPORE
12	会員	長谷井 宏之	DBJ Singapore Limited
13	会員	安藤 翼	NIPPON KAIJI KYOKAI SINGAPORE PTE LTD
14	（現地参加）	渡邉 尚之	JETRO Sydney
15	（現地参加）	青島 春枝	JETRO Sydney
16	事務局	梁 瑜	JCCI, Singapore

参加者からの主な感想：

◆JCCIの海外視察は初めて参加しましたが、水素サプライチェーンPJからスタートアップと幅広い各種トピックスにおいて非常に有意義な活動をすることが出来ました。

◆サステナビリティがグローバルかつ官民共通の非常に重要なテーマになるなかで、他社様のお取組みや州政府の方針など、普段の業務範囲を超えて勉強させて頂くことができ、非常に良い機会だったと思います。またJCCIメンバーの方々との交流がより一層深められたことも大変有意義でした。

◆資源が豊富でHAPPY COUNTRYと言われる豪州を資源とサステナブルという両側面から学ぶことができた有意義な視察であった。特に、LOY YANGの褐炭田と発電所でその規模感を実感した後、褐炭から水素製造テストプラントを見学。水素運搬上の課題や政府の支援姿勢等についての、川崎重工の福間様からのレクチャー、またJETRO様による豪州の状況説明については、非常に多くの学びがあった。

◆これまでマスコミ等を通じてGX関連の記事をたくさん目にしてきたが、まさに施設を現地現物で見学はするのは初めてであり、大変貴重な機会となった。また、施設の見学後、JETRO様にレクチャーをいただいたことで、産業界の過去と未来を象徴する火力発電所と水素製造プラントが現在どのような環境に置かれているのか、より具体的に理解することができた。企画をいただいた事務局の皆様に心より御礼申し上げます。

◆部分参加、それも1日だけでしたが、①液化水素という旬のネタ、②現地に行かなければ体感できない炭鉱＆プラントの存在、③現地受け入れ側の協力姿勢、④JETROによる包括的な説明、等が上手く噛み合ったことが勝因であろうと思います。

◆実際の石炭採掘場、水素製造プラント、液化水素製造プラントを見学でき、百聞は一見に如かずであり、非常に良かった。　また、現地で携わる方々から生の情報を頂くことができ、今後の豪州における水素製造に向けた動向や、ビクトリア州の方針を把握することができ、大変有意義だった。　また、同行させて頂いたシンガポール在住の各社の方々と知り合えて、繋がりができて良かった。

◆在星日系企業の皆さんとのお話を通し、気付きが多々ありました。
やはりエリアを広げ意見交換することは重要との認識を新たにしました。日豪星間で引き続きコミュニケーションをとらせていただければ幸いです。

◆出張で訪れることのあるメルボルンですが、違った角度から学ぶことができて大変有意義でした。視察団の皆様とも、旅中の交流を通じて普段と異なる一面を知ることができました。ありがとうございました！

◆水素プロジェクトの見学がやはり稼働していない役目を終えた設備を見るだけというのは臨場感に欠けた感がありました。会員同士の懇親を深められたのは非常に良かったと思います。

◆今回、オーストラリアにおいて、日系企業が政府と連携して、サステナビリティな取組事例を深く勉強させていただきました。特にグリーンエネルギー事業は、日豪に取って今後も重要な連携事業であり、実証検証を含めて、今後更に加速すると思います。我々も、引き続き、直接及び間接的に、このサステナビリティな取組に関与させていただければと思います。また、いろいろ調整頂いた事務局の方々に感謝申し上げます。

◆アジア・オセアニア統括の皆様がオーストラリアの脱炭素に関心を持って下さり現地側としてお迎えさせていただくことは、大変光栄であるとともに貴重な機会をいただきまして心より感謝申し上げます。様々な業種の方と意見交換できたのも大変良い機会となりました。オーストラリアのことでまた何かありましたら、いつでもお声をおかけください。

以上